

2025 年度(第7回)日本口蓋裂学会認定師認定審査について

－ 音声言語分野の手引き －

日本口蓋裂学会では、2019 年度より認定師資格の認定審査を開始しました。下記の要領に従って、申請者自らの分野での口唇裂・口蓋裂治療と他分野と連携した治療についての代表的な経験症例を提出してもらい、公正に審査を進めることとしています。

申請者は、手引き内容に従い、経験が十分判断されるように説明と資料添付を行い、漏れや誤りなく、期限厳守で提出をして下さい。

尚、歯科領域に関する用語に関しては、下記を参照して下さい。

日本歯科医学会学術用語集 第2版

https://www.jads.jp/assets/pdf/news/181225_01.pdf

2025 年 9 月
認定師認定委員会
委員長 飯田征二

1. 書式 4、5、6 の説明

書式 4: 重点症例記録 (Powerpoint ファイル:項目を同じとし word ファイルでの作成でも可)

主たる担当症例 1 症例

・申請者が、言語療法において、評価から治療まで一貫した治療を実施した症例の記録を提出して下さい。

・言語療法の区分は以下の 3 項目から 1 項目を選択して下さい。

- 1) 鼻咽腔閉鎖機能の評価・治療
- 2) 構音の評価・治療
- 3) その他の言語障害(言語発達遅滞 など)

*重複例は主症状の項目を選択して下さい。

・評価、言語面の問題点、言語療法の立案、治療内容(他部門の連携がある場合は明記する)および、まとめを記載して下さい。

【記録を作成する際の注意点:重点症例、ミニレポート共通】

＜全体＞

- ・基本情報(年齢、診断名、手術歴、現病歴などを含む)、評価、問題点、治療方針、言語療法の内容(実際に行った訓練の経過や再評価)、他職種との連携体制、その他特記事項などを項目に分けて記載して下さい。
- ・患者名や生年月日などの個人情報や、具体的な施設名は入れないよう表記を工夫して下さい(例:Aさん、当院、A病院)。
- ・使用した評価法(検査名)や評価の基準がわかるように記載して下さい。
- ・誤字脱字に留意し、英数字は半角で統一して下さい。
- ・用語は書籍や文献などで確認し、教科書等で一般的に使用されている語や表記を使用して下さい(例:口唇破裂音→両唇破裂音)。
- ・図表のタイトルは、表は上に、図は下に書いて下さい。
- ・原資料として各種検査結果を添付する際は、検査施行日または施行年齢を記載して下さい。

＜基本情報＞

- ・年齢はレポート作成時または最終評価時を記載して下さい。
- ・手術歴はレポート作成時までに施行された手術を記載して下さい(例:口唇形成術、口蓋形成術、瘻孔閉鎖術、顎裂部骨移植術)
- ・一次症例(申請者の所属する施設のチームにおいて、初回手術から継続して治療を行っている症例)、二次症例(初回手術は他施設で行われ、その後申請者の所属するチームで治療を行っている症例)の別を記載して下さい。
- ・現病歴には、言語管理開始時期も記入して下さい。
- ・言語障害名は、該当する内容を記載して下さい。
(例:「鼻咽腔閉鎖機能不全」「構音障害」「言語発達障害」)

＜評価＞

- ・言語評価(鼻咽腔閉鎖機能、構音、その他の言語評価)、耳鼻咽喉科、歯科など他領域に関する情報収集のまとめや行った検査の結果、その他特記事項などに分けて記載して下さい。

1.言語評価

1)鼻咽腔閉鎖機能

- ・使用した検査名を記載して下さい。(例:口蓋裂言語検査など)
- ・各検査の結果だけではなく、判定の根拠とともに総合的判定を記載して下さい。
- ・口蓋裂言語検査は、開鼻声、呼気鼻漏出による子音の歪み、ブローイング時の呼気鼻漏出の結果をもとに総合判定を行います。実際には、判定保留になる症例も少なくありません。その場合、他の検査結果も考慮して、他職種とも協議し総合的判定がなされることに留意して下さい。
- ・機器を用いた検査(例:ナゾメータ検査、側面頭部 X 線規格写真、鼻咽腔ファイバー検査など)を実施した場合は、検査名と所見を明記し、評価結果の図や写真を添付して下さい。側面頭部 X 線規

格写真はトレースも可とするが、鼻咽腔ファイバー検査は写真を添付して下さい。

2)構音

- ・実施した構音検査名を明記して下さい。(例:新版 構音検査)
- ・音声を表記する時は[]に、音素を表記するときは/ /に入れて表して下さい。音の誤りの記述は音声表記、あるいは専門用語(例:「省略」や「側音化構音」)を用いて下さい。
- ・検査法の手引きに沿って記載し、特異な構音操作の誤りについては詳細に記載して下さい。(例:△PA は[k]に近い歪みを示す)。
- ・検査法の手引きに沿って、誤りの有無や種類、起こり方や誤り方の一貫性の有無、被刺激性の有無などがわかるようにまとめて下さい。
- ・構音位置、構音方法、有声・無声など音声学的視点から誤りをまとめて下さい。
- ・構音障害の有無、構音発達の状態の把握、構音訓練を実施する上での手がかりの記載をして下さい。
- ・原資料として、音の誤りが記載された単語検査(会話の観察含む)と音節検査のシートを添付して下さい。

3)その他の言語評価

- ・言語発達面の評価を他に実施している場合は、検査名、検査結果を明記して下さい
- ・検査を実施していない場合は、検査やコミュニケーション場面で音韻発達、言語発達で気づいた点を記載して下さい。

2.その他の評価

- ・耳鼻咽喉科、歯科など他領域に関する情報収集のまとめや行った検査の結果について記載して下さい。
- ・聴力検査を行っている場合には、検査方法を明記し、オーディオグラムを添付して下さい。

3.特記事項

- ・心理社会的問題や本人の自覚などについて特記すべき内容があれば記載して下さい。

<問題点>

- ・箇条書きで記載して下さい。

<治療方針>

- ・評価の結果、問題点と対応させて記載して下さい。鼻咽腔閉鎖機能不全については、不全の状態(程度)に対応させて、治療の内容や順序がわかるように記載して下さい。
- ・構音は、まとめをもとに、誤り音に対する訓練の適応の有無について述べて下さい。
- ・訓練適応があると判断された場合には、どの音に対して、どのような順序で訓練を行うこととしたのかとその理由(例:被刺激性の有無や構音類似運動検査の結果、音群、構音発達の順序、発話明瞭度への影響)がわかるように記載して下さい。

<言語療法の内容>

- ・構音訓練を行った場合には、訓練の順序や内容を記載して下さい。訓練中、訓練後に再評価を行っている場合には、経過がわかるように記載して下さい。
- ・構音訓練の経過に関連する事項(発達面や聴力障害など)を追記する必要がある場合は記載して下さい。

<他領域との連携体制>

- ・対象症例の口唇裂・口蓋裂治療に対して、他領域のチームメンバーとどのように連携をとって治療を進めたかがわかるように記載して下さい。

<その他特記事項>

- ・教育機関との連携など、特記事項があれば記載して下さい。

書式 5: 報告症例記録 (Word ファイル)

ミニレポート 5 症例

- ・申請者が、言語療法に関係した症例の記録を提出して下さい。
- ・区分は以下の 7 項目から 3 項目以上を選択し、合計で 5 例の異なる症例を報告して下さい。
 - 1) 構音評価
 - 2) 鼻咽腔閉鎖機能の評価
(言語聴覚士の評価、他職種との連携評価、総合的判定などを含む)
 - 3) 鼻咽腔閉鎖機能良好例の構音訓練
(鼻咽腔閉鎖機能について積極的な治療を要しない症例)
 - 4) 鼻咽腔閉鎖機能不全例の構音訓練
(補綴的発音補助装置装着例や口蓋裂二次手術後の症例を含む)
 - 5) 他職種および他施設言語聴覚士との連携での言語療法
 - 6) 言語管理(言語発達、聴力評価、音声などを含む)
 - 7) 家族支援(発達面、聴力、心理社会的問題を有する例などを含む)
- ・区分番号を必ず明記して下さい。
- ・症例の年齢はレポート作成時または最終評価時の年齢を記載して下さい。
- ・1)、2) では評価について、3)、4) では訓練について、それぞれ詳細に記載して下さい。
- ・5 例のレポートに 3) および 4) を含める場合には、同一の構音障害ではなく、異なる種類の構音障害を示す症例を選んでください。
- ・訓練が終了してなくても構いません。
- ・資料がある場合は、資料を必ず添付して下さい(例: 構音検査シート)。

書式 6:業績目録

・申請者の下記条件の業績を列記して下さい。音声言語部門では 2022 年度より変更され、緩和されました。

1)言語聴覚療法に関する筆頭あるいは共同著者の論文または著作 1 件。いずれも、口唇裂・口蓋裂の言語聴覚療法に関する内容とする。論文は、医学雑誌、学術雑誌に掲載されたものに限る(紀要を除く)。

2)言語聴覚療法に関する学会、研究会などの発表で、代表的なもの 2 件。2 件のうち、1件は日本口蓋裂学会での筆頭発表であること。その他 1 件は他学会等の発表でも良い(共同発表者でも可)。

・上記 1)もしくは 2)のどちらかを記入して下さい。

・注意事項を守って記入し、自署、捺印をして下さい。

2. 問い合わせ、送付先

症例内容などの学術的質問や申請ファイル(Powerpoint、Word)や書類の記入方法や申請方法などについては、日本口蓋裂学会事務局にお問い合わせ下さい。

1) 認定師認定委員会 音声言語分野委員 (＃は分野責任者)

＃緒方祐子 倉重こどもクリニック

・佐藤亜紀子 帝京平成大学

・井上直子 大阪母子医療センター

・武井良子 昭和医科大学

・大湊 麗 新潟医療福祉大学

2) 日本口蓋裂学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号

新宿ラムダックスビル (株)春恒社学会事業部内

jcpa-office@shunkosha.com (メールでお問い合わせください)